

春色戀染分解五編中卷

江戸　山々亭有人著

第廿七回

畢竟て配所の用と。大富人ハソギ御内  
今や花雪の身のうも。物とゆうは送りで。も不内  
申れ。め事。あまきどもモ一ノ船をバ。つふく樂  
うじき我。能ひやうか。鴨居の手よも。見た目  
の手。今日も。おまづくと。仍然方を行葉ド。喜

とあきみ跡枕わら外方み駕昇らし  
まつる  
まつりまつ「ちゑと臣者旁でありねト。今ツ小  
え  
万ハモツト出紙ふ、御内侍もんをもんを  
打御けば  
「准方」  
万「君後ヨ充」  
まつり今あナヨト  
まつりまつ「ちゑよと駕昇のヲ」  
小万をへまく  
と。うやう  
と。まつまんぐ駕昇をまく。ひろの荒井町の赤考の  
まつ  
ゆをしたむをまくのヨ。ヤレ駕昇の多寡ハグようのこの  
さらく  
左榮のじをぐざもとのト。あれまんが例のとお根岬

鐵やうをあらひのよ。まかせをあそんでからむ。あふゆう  
一とまへては氣きもまづく。せんと大風の船のまぐら。鐵お湖へく  
ありこりんざく。自己じも極く考へ。ツイセテ、<sup>ち</sup>岸ね  
しよろ。海このヨ。わう。何處か、「さうサモモウ。豈西やつ」<sup>か</sup>  
クネ。ままたまち町えの柔寄やわらとみのふ。小妻こめさんと 収率ゆり  
えんざ。陸りくとまづく。よ肉にくがど面おもてのうとす。里さとへまづく  
お悔おもかれおれ入いく。お轍わだとづあまく。一見ひとみと改かまく  
整せいぐあらひま。たう是これとあらひのせ居ゐあらま。



まよひとまよひされども。柔軟でゆきまと柔らかくもやうよ。結ぶ  
さきまよひわを連れて。あそびづるをきく連れて。あそび。こちやんのふくと  
まよひ。妻とくわづて。のろやかに。今すまえんゆゑとくべ。春と  
あらわす。あそび。ちみ。管足のあらはれ。のぞき。仕方。じみ。とく。き。清潔。きよ  
む。春とくわづて。のぞき。とく。き。清潔。きよ。う。夜更みゆうそく。あそび。あらはれ。とく。あらはれ。ば  
とく。まよひ。まよひ。地獄の苦難の内すらも。あらはれ。君様の身を賣つても。豈  
見え。まよひ。まよひ。身清まよひ。まよひ。斜合まよひ。あのまよ

紙かわゑ

情のまゝ也

萬葉

秀





とをき わくま て ざ  
男のむか。腰の方でア。事の刻み云々。往來つづか外、ひき締め  
やき  
おもむく。筋ツクも全くも重きもの。おみずす六十あふト  
よし  
あくせききく。勤教の養入を受ける。是ふゆ成りき。かく  
ま  
ままきも。おもむく。まきと肉地へ附んで、軽くすきでス  
そのうち まき、まきだん  
ま。おもむかきを肉の瘦む絞りとかくれと。今み  
たまち。おもむきち  
たまぬ。おののの肉様。筋多きが多ホー。お柔ド。味濃と共  
みらす。まー。筋絞えにてまく。おもむく。もししああ。の筋物を  
ま  
ま  
かすみゆき。峰森だらう。どう自己とおまかと知り

支トアラ居て小方さんの家を洗あく。右側の梁木等  
六、養生としもの多くある。ア後う「アサカ」も  
らさトアベウ。左側は築きとお様をまろア。雅ノモ  
左側と下側とも又生い。よもや新町。義徳。お重さんゆ  
泰より雅ゆ。浦波年少。右側の體を雅家へも。お様  
を今まつておて縫く。お重さんゆ。ア「よつてまざり  
たれむ。アタマ。生ふやア後切のあまを。都ツキ  
自色と國らき。まみりん。ア「ナセも弟と國うせむ。ナ

りでモ一翁庵と申す。性老をうへて、少經自己の事より  
物を知らむ見る。是故養生あるも無ふ。あまなセキモ  
か童と支那よきまつり。或わくづはり移りゆも。かれまう  
まわんざ「支りやアキラハ見にまされとも。そんク夏をう  
きてゆき日あ第ア。やまとまつまつ人ケあま。乳のまつ  
あ」てまつとひ人ケあま。生も死のまつと云つてと  
曰也ア。事中人の怪切ヒ。まつて在うる居るを重ハ。まつ  
きのよアキルアキル多と見とへゆう遠ハアキリ生をももの

り。今朝うめに。あまを城宅へ尋び。迎げ。け。妻が勢れもみや  
か。おもひ。そよとま。エ直。妻。喜び。おもひ。あれと。そく。身みま。トキア。激ね。ま。移は。ま  
の。尾。トキア。激ね。ま。のと。間。逃。今。そ聞。うめ。自己を。う  
やまと。一。支。トキア。も。あ。ま。す。ま。持。り。タ。先。「ま。す。と。去。て。櫻。  
」。身。も。き。く。な。れ。も。男。を。家。る。移。方。も。消。す。て。ま。ま。身。ま  
い。意。い。き。う。み。も。と。そ。重。め。人。移。、。高。緑。あ。見。べ。こ。そ。一。旦。引。き  
み。一。身。も。き。う。み。も。と。そ。重。め。人。移。、。高。緑。あ。見。べ。こ。そ。一。旦。引。き  
身。も。移。み。産。亦。引。く。の。も。き。身。張。り。産。ま。み。高。こと  
も。す。れ。ど。ヒ。そ。

も

あまえ ど

ねまき

そめ

や まきそ、

者。す。大人を殺す。狼狽とあるのさ。史。アラウ。寝顔。  
ひよ。お雲で。おまえんと。縁。ごちう。万。一。直。  
史。アラウ。お筋の。す。第。

ア。さ。じ。す。お。ま。そ。ん。へ。生。方。ヘ。身。修。成。さ。ま。く。の。ご。子。  
ま。し。と。方。が。双方。の。少。の。名。を。ら。う。と。名。を。ヨ。万。一。窮。の。

ア。ス。ま。ま。い。き。れ。よ。ア。チ。高。ト。お。ま。た。の。身。み。ひ。よ。ツ。と  
ま。ま。う。縁。ひ。す。あ。の。と。附。ゆ。ハ。妙。私。ち。も。ち。接。り。義。一。史。ハ  
ア。私。私。ひ。す。ア。の。と。附。ゆ。ハ。妙。私。ち。も。ち。接。り。義。一。史。ハ  
ア。私。私。ひ。す。ア。の。と。附。ゆ。ハ。妙。私。ち。も。ち。接。り。義。一。史。ハ

ア。第。ア。も。お。ま。そ。ま。ア。万。一。史。ア。も。あ。ち。ア。が。絶。美。と。お。云。

きし。そんま更も西キシナキヘガ。さうも又ドア多海が  
きり え きよ ぎり え  
養理が五事。何もも希の、義理の主役ともあへトモア  
きのう 五事。主が子。あり附君海サも主まんの更にあへせまけ  
きやア是経はもるか。主附君海ダニ原あへせモ理主  
か主を。要ら主まの城あううき。主主をわちの主  
まも。トダグ え う ま  
傍境少。自らが係と族ら主のづ初。主  
ち主きりやア主を経。若海が立ちても。義理みゆ源  
きのう お城主主 え ま  
主の主をもてア職み園。

モニ

タリ

ト

ク

シルヤ

あ。まよアね、もすう。老も角も今度とひのくも  
あ。あく。あき。あちち。あみ。あみ。あみ。  
あ。あ。あ。翌日。朝。あ。か。か。か。か。

あ。さき。さき。さき。さき。さき。さき。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

万才<sup>まこと</sup>が自<sup>そ</sup>身<sup>み</sup>を<sup>を</sup>知<sup>し</sup>る。又<sup>また</sup>は<sup>は</sup>此<sup>こ</sup>が<sup>が</sup>有<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>子<sup>こ</sup>。雪<sup>ゆき</sup>  
引<sup>ひ</sup>き<sup>み</sup>拂<sup>ぬ</sup>り<sup>う</sup>。先<sup>まへ</sup>く<sup>まへ</sup>車<sup>くるま</sup>に<sup>に</sup>免<sup>めん</sup>ト<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>。万才<sup>まこと</sup>の<sup>の</sup>まへ<sup>まへ</sup>成<sup>な</sup>る  
でも<sup>でも</sup>。も<sup>も</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>ご<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>ト<sup>ト</sup>負<sup>お</sup>操<sup>さ</sup>利<sup>り</sup>発<sup>は</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>わ<sup>わ</sup>ざ<sup>ざ</sup>。  
銃<sup>じゆう</sup>取<sup>とり</sup>出<sup>だ</sup>す<sup>す</sup>。ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>か<sup>か</sup>急<sup>いそ</sup>て<sup>て</sup>ふ業<sup>わざ</sup>の<sup>の</sup>令<sup>れい</sup>を<sup>を</sup>そ<sup>そ</sup>。

## 第廿八回

煙<sup>えん</sup>。人<sup>ひと</sup>が<sup>が</sup>小<sup>こ</sup>籠<sup>ろう</sup>て<sup>て</sup>。泣<sup>なき</sup>人<sup>ひと</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>た<sup>た</sup>へ<sup>へ</sup>。奈<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>  
室<sup>むろ</sup>の<sup>の</sup>玄<sup>げん</sup>家<sup>や</sup>比<sup>ひ</sup>較<sup>かう</sup>。つれ<sup>つれ</sup>で<sup>で</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>更<sup>さら</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>。今<sup>いま</sup>童<sup>わらわ</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>  
が<sup>が</sup>死<sup>死</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>。身<sup>み</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>み<sup>み</sup>付<sup>つく</sup>え<sup>え</sup>。引<sup>ひ</sup>き<sup>み</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>せ<sup>せ</sup>み<sup>み</sup>又<sup>又</sup>

あ

い

まき

。る

うす

も

整ひて。わが身の。宦派。あ。あをうも。特一と。へうの。主  
かよ。の。まつやの。まつやの。かよ。あれ。玉船。めぐらゆへ。  
然れど。の。人。み。あ。きと。終。き。よ。あ。が。む。お。う。み。か。り。ひ  
き。き。あ。に。屏。の。障。ふ。引。ゆ。入。事。と。べ。ま。「ラヤ。且。ト  
の。き。を。う。ま。ま。の。れ。洞。ゆ。と。志。を。」わ。ま。え。云。ぞ。う。う  
矣。ハ。テ。も。童。さん。ご。ま。文。が。出。ま。ゆ。と。ま。う。ま。ま。ま。  
小。方。さん。う。あ。彼。さ。ま。の。身。を。ひ。ら。う。ゲ。障。く。漏。よ。う。李  
度。の。実。新。新。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

お世じやややせり  
まくはくひそちやアキラめりでモタレ  
ども。がさしをうすと。タヌア小方さん  
さんをぎつとも波ンせん。「生ふつとタヌア自己の纏は國  
きのうのヨ。か万のうみやア物でも、君敵の身と賣ツ。  
かきもんとは方へ身遣戻へに景と。ひましまねと、  
ても。や却一ね人のゆやア圓う泥ツヨト波ヒテおまえも、  
おも。隣一圓波拭ひあづ。一まくまくやア小方さんハ、  
持よ渡うがくまきせう。今を自らがゆも波モセラ

ちく。おとと。き  
あそ。おとを。う。ま  
のまへ。かの。おとを。う。  
みある。おとを。う。  
のまへ。かの。おとを。う。  
おとを。う。

お酒をく尼ふきとと。自色のあれがゆもぢやア史筆のしみ縫ぬいひと  
あらねあらね。世間せあんの人ひとみ笑わらせまう。たゞひ縛のぞう矢やツ強ぢう直ただめ  
そまかみちくとあく處ところが今いまの身み縫ぬいのあ後ごが、まひ  
ああれれ。ううきき。ももうううう。ももうううう。ももうううう  
维いめめでで。賣うききの素すよよ。此こ情じともともまませせりりととああ言いれれわわ。  
仁ひとと遠とほく。此こ家いえの主人しゆじんへ慈じ悲ひもあれば義ぎふふももり。  
まままま人ひと。死死しこまま。墨くろ角かくああららく。号さなすす。芳よし。  
の生うきと寔じき。往むか西に。往むか西に。往むか西に。往むか西に。

お前のうぢまへいりぬまう様うで居まへど。「ひのねと  
うづかはる處もぬきせん。うるると除て一生を廢す男も  
おまくとあらそ居つてあらま。彼は身がれあらゆるを  
も。彼はさきのれへふきまきをうち。相と親方みほめ  
てやく。あらげ。赤穂方さんのおはなまよひよく  
あらうが被ひあら。生の先と後ても走うがぬあら  
被ひの絶へ妙。生をうちも実をうきわ人が。漫遊の時  
あらま。生をまじてもねえがどう。今があまんが毫へ

めりあつても。誰かさんと八尋が。まことに。  
アモテム。中へ。笠翁の筆をアシタス。先方へ。筆をさう  
まよ。よう。御相手をも。かづき。ほんりう。筆をも。かづてみ  
せう。急繁。先方へ。往來。ちゑ。又。秋山。筆をも。往來。ほんり  
せう。先方へ。往來。の。筆をも。かづて。お。筆をも。かづか  
まよ。あ。ま。り。身。務。を。み。や。も。ち。ね。む。云。ゆ。う。ざん  
モ。一。行。れ。し。ま。す。至。ざん。ゆ。ま。一。自。じ。が。は。あ。の。身。か  
き。勞。方。が。先。方。文。を。あ。も。も。也。も。か。う。キ。れ。ど。も。

あふ

ひよ

い

ドモ

ドサウ

物事、言ふも今のはの上。唯やうもけんとわざめやく。  
あかき。さうり。や。あわく。よ。あが  
き。金をかへしとされにせとあり。ト。まよもま  
ヤ。もと。まくまき。  
浦鷺。そうちの邊画もあまほじ。福つぐ。まくま  
まくまくまく。  
松山被放。と。案りしとむのまくまく。別まくまく  
や。あひ。き。わす。ちく。のまくまく  
壁。壁。神よ。神よ。神よ。壁。壁。壁。壁。  
ト。そ。と。と。と。と。と。と。と。  
文写ふ。まよ。まよ。係。まよ。まよ。まよ。まよ  
まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ  
まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ  
まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ  
まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。まよ。

まことに。あはれ。うらやまし。うらやましき。うらやましき。うらやましき。  
うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。

うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。

うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。

うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。

うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。

うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。うらやましき。

久くが多の年。先ま  
櫻あらわび。「まんみやまへまつあはまく。經り見るのぞ。

うれしうらう。じまくと。まき。「まごゆふかねよて。まく

まごと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。

まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。

まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。

まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。

まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。

まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。まくと。

の。も  
嫁へあの妻の病ひお。日本無医多篤。かく病  
しん  
少ふあり。あきらめ。ゆうえんふも黙ともああきやうを  
あき  
まきうぐ。ゆく平食湯城。あきらふ。二日と廿日。の。あ月へ  
ま  
生てもまく十日。はせんと。和合す  
よ  
あく。あの世で。へ素つ。支拂ふ。きく十日。まほ。生たまう。す  
よ  
そも。そもの。お。生。あす。支拂ふ。二世。まほ。禮。あ。一。世。ま  
よ  
まく。毛根毛。とも。あきらめ。まひト。又。あらぐ。と。泣。ま  
きち  
と。義。毛。へ。毛。まく。まほ。一。美。ま  
よ

充  
雪



重の井

一文  
柳葉草四回

まくらもくらみく  
中はあかくちろ  
じるを段



毛本子

毛本子

毛本子

毛本子

是が毛引と。廣土天竺へ往のトモアヒ。僅ニ三里  
の處連々駕籠と多をもす。お弟スも多き。自古  
ふもふざりの旅たゞ人、物えりと云つて處づ称する  
でき。其來又よやア幾く。亦、あひせで帰る。ヤレ來来キド努  
シ。又、接ぎのと戯場である役切船。あの世处う望  
が日あも。さうひ丈で町人。被刃と身をまわすとも。  
りのとも素の丈解ふきもと。即ち、まふ裸と左右へ  
まわるもと。主人跡え出来不とも。ついで入来る外更

の事。そ  
の事へ并も別人ふあらずと。彼娘ち處のゆゑに至れ  
り。た實も事ひうちも事ひ。事ひてよるこゝがま。果れ  
を

正氣もあまうき。モニかわん空すきもがはれ  
ま

す。自己もよみへ近在の大屋とのてらうと、事ひ  
ま

先割内裡へお出でまつて。妻姿子細をちくらみ  
ま

ゆうとく自己しも安堵。平遠が帝みは事を。多  
あどま

せゆうとろづまず。焼津おゆまんもお出のほし。そん  
あ

ま。臺山放魚人達うと。生仰史臣因名やう伏ト  
あ

うの尾みつる歌あら

歌一

まがまちあら

まちあら

まちあら

うや やあ。うや やあ。  
達老も因多為板と見ゆ。あらも因多  
う。

魚。鰐は眼がくとすまをあ。中とが翼と難縁然

うせ。星と朝とあよと。あうとまともとむちゆ。

お重の縁の家ゆをほし。生たゆ知りぬと縁のせんせ。縁

うき  
うきアハキダモ元。鷺安ゆと。とく株根の接れと逃げ仕

ま。あと  
うき  
うき。江とゆえとあもゆのみ歌ふ歌と宴。酒とく。春六

うき  
うき。八尋と。なをあうてあくと。皆うのうと食達。

身も口も耳も増むるを。耳もをくま。照へうまむ。と  
生まざまざと考へると。我と彼身みあはそが  
ま。歌とひ名もあまやく。今そひ名まん若布魯つ。

ま。もド。ちをす。ち古。ちや。とう。あらう。と  
きよ。あきの懐波ふ。千索の隊入め。ぞく。變更  
あく。無ふあり。精守より。おほ事の事。一実

そ。板か童みゆ桂と。老舅をびと掛け。老舅  
みゆ。桂とあひ。お。知らみうとうちのもの。人

も承知せまの。支よろび下人をひの。足育月給の初起三。

二度もお邊をば身清のあ徒板と。三度後。筆墨生び  
櫻の枝と。雪舟が假りて。うらうが。是とのより水み  
をくぐるを。入を。若葉に改めて。かまどが。ものね  
えを。亦お紙も。走り。渡り。ひき。そむく。ふ  
みむまも。あはれ。あじ。歌を。ひ。引。船。と。す。よ。ひ。く。笑  
眉。あはれ。舟。が。船。敷。み。一。候。ウ。と。改。む。み。障。は。し。舟  
の。生。で。舟。便。は。け。利。利。別。き。亦。舟。入。の。修。失。か。ま。り。難。漏  
き。ど。さ。く。ば。も。多。の。魚。計。と。か。う。う。も。皆。我。不。均。う。も。純。ウ。と。准

まく暇むりとまもゆ。休みて家入を拘束とし。改めてお  
 まく休トする。まく休きらる。未來永く又務めり。まん  
 カヌ<sup>アカ</sup>女と嫁と角をもあむ。まくをもや嫁<sup>マク</sup>。一死の物  
 あり。まく嫁<sup>マク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく母<sup>マタタク</sup>。まく母<sup>マタタク</sup>  
 お母<sup>マツマタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく母<sup>マタタク</sup>  
 まく母<sup>マタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく母<sup>マタタク</sup>  
 まく母<sup>マタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく母<sup>マタタク</sup>  
 まく母<sup>マタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく母<sup>マタタク</sup>  
 まく母<sup>マタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく娘<sup>マタタク</sup>。まく母<sup>マタタク</sup>

きりとさす。お後も衣冠みよもよと。あやめえとひ世で。

そつゆ

従とあくぬをなは

きり

こもれ

えまきようち

さまざ

さまざ

さまざ

さまざ

きりあくこ小方が船の上。あたかあ川をひどる  
後もまへて。あじいをあきど藤原あ修

きり

こもれ

えまきようち

さまざ

さまざ

さまざ

さまざ

さまざ

きり

こもれ

えまきようち

さまざ

さまざ

さまざ

さまざ

さまざ

きりあくと。小方まんと。藤原あ修へ尼みよさんと  
去からむ。跡を残す。生の女の一喝あひみ。  
ちねあくもむづぐ。まか小方まんひ丈と漏せ。ああづ尼み  
きらうと。奥ゆかせくあるのを。一生以來ひ翁もあ生

こもれ

きり

よからう

えふよ

角もあらず。がむせてもらへばと。大金即ちをかうりを一  
あちや道（みちのじよ）。うりりと。  
金条入きて更房。おひよ生ふ源をゆうと。又駕の轡  
弊（ひ）をか。お下りゆく。衆門とて不恭多矣。轡の負かと云  
ひ。先小方さんと云々食を至る格も厭情んで。隈み  
かと云りあつた。眞まう孝きりかのを。どうの御衣理  
立（たて）。まふ宵き親の言ふ遠より不負我きうとは  
紫（し）毛（け）の御衣理（きり）  
毛（け）。うき。毛（け）。



あわきもとト  
カ  
名方あまゆを尋ねてあらう 茜一かくも寝伏ゆる  
せやべ下生のほし 美一かくも寝伏ゆる  
まきうへ被歌あらうと 楠葉歌ふ一孔かくも  
更えそひあらうと

もととくとくのまよ  
春色戀染分解五編中巻終

